

平成25年度 行事 総括

行事回数： 73回 参加者： 73名

延参加者： 423名 延参加日数： 605日

新宮山彦ぐるーぷを創立して来年で満40年の節目を迎えるが、私にとっては、今年は大きな節目の年であった。

「年年歳歳、人同じからず」の通り88才の馬令を重ねると体力、気力の衰えは如何ともし難く。「斃而后已」(倒れる迄やり通す)ことの信條にもとづいて、ここまでやって来たが、倒れる前に体制を引継いで貰うことが大事と世話人代表を川島 功氏、庶務会計を沖崎吉信氏にお願いして、この一年、円滑に軌道に乗るよう残った馬力を傾注して協力させて貰った。

この一年を振り返ると凡そ十二項目の特記事項があったので、列举してみる。

その一 新春初山行 奥伊勢・マスガタ山(Ⅲ△九五五・四m)

実施日 1月2日

以前は初日の出迎春登山であったが、成る可く初雪を踏み、しかも日帰りで初めての山々を求め、平成5年の一族山より、6年 伊勢・行者山。7年 龍門山・西又。

8年 子ノ泊山。10年 十津川上流の乗鞍岳。

11年 大塔山。12年 田辺・竜神山。

17年 十津川・ヒバンダラ。18年 三本松と丸尾山。

19年 ムネドチノ頭。20年 竜神・城ヶ森山。

21年 志摩・国見山。22年 大和・古光山。

23年 北山・禅舎ノ倉。24年 大和・後古光山。
山に親しむ我々として、正月早々から積極的に打って出た
いものである。

その二 浦向道の補修・改修

毎年、一、二月は、国道425号に雪があって、車の乗り入れに支障があるので、行仙宿巡回は浦向集落に近い十津川橋からの古道を、雪を踏みしめて歩き要所に道標を設置し、測量用の鍵型杭を切株に打ち込んで、たまにこのルートを訪れる遠来の登山者の便に供して来たものだったが、和歌山の仲間・瀧本昭太郎氏の指摘を受けて、ヤセ尾根の陥落個所に、栈道(長さ7m)の架設をして、ひとまず安全が確保された。この外の補修・下見を含め6回の出勤であった。

その三 代表交代に依る要所挨拶回り

3月06日 奈良県庁、奈良森林管理事務所

電源開発(株)橋本送電所

3月13日 大津・園城寺(福家執事長)

京都・聖護院(宮城管長)

3月19日 下北山村役場(上平村長)

吉野きたやま森林組合(森岡参事)

十津川村役場(更谷村長)

3月26日 吉野山各寺院

金峯山寺 (五條東南院住職)

櫻本坊 (巽 住職)

喜蔵院 (中井住職)

竹林院 (福井住職)

4月13日 塩川正十郎先生(大阪事務所)

茂原 治先生(泉南市もはらクリニック)

塩川先生には、破格の席を設けて頂きご馳走になった。

その四 近畿中国森林管理局と新宮山彦ぐるーぷ協定書締結

3月13日発効。「多様な活動の森(世界遺産・南奥駈道自

然の森)」における森林整備活動に関する協定書締結。

この締結により林道などの利用が正式に可能となる。

その五 南奥駈道倒木処理と関伽坂(あかさか)尾根道開通

4月14日 連休に備えて、行仙宿く持経宿。

持経宿く太古ノ辻の倒木処理と

関伽坂(あかさか)尾根下降取付きに鎖をセット。峠との間、

略々開通出来た。この尾根径の開通で増水時のエスケー

プルートとして、又、木の段差・階段下降時、滑落事故

を避けることが可能となる。

その六 行仙宿・行者堂に聖徳太子像安置

5月23・24日 九州柳川の行者・吉開賢淳師が精魂込め

て彫刻され、高価な厨子に納められた聖徳太子像を御寄

進頂き、関係有縁の方々にお写経奉納をお願いしたとこ

ろ、246巻にも上る御協賛を頂いた上、多額の御祝儀

を頂き、吉開賢淳導師に依り35名が法要に参加して下

さった。

その七 平治宿・水場径大改修

6月1日、8月7日 昨年(7月28日)、上平一郎氏の承諾

を得て、平治小屋近くで杉11本を間伐させて頂いたの

を10月6・7日、小屋まで運び込み、杭材・棧木材・

副え木材等に小切り割って乾燥したところで、本年6月

1日13名で一気に改修し、8月7日、水漏れの水場鉄

桶にコンリートを打ち込んで復旧された。

その八 行仙宿「社員の合宿研修会」ツアー協賛

7月4・5日 十津川村の依頼により「伝説の修験道の道を

歩く」ツアーが行仙宿であり、玉岡前代表の南奥駈道の

開設作業などについて講義と懇談が催行された。

事前の打合と連絡不足並びに梅雨時期の天候もあり、反

省点は今後改善して行きたい。

その九 大台・竜口尾根縦走

10月13日 この足跡稀な尾根を通したので、昭和53年

10月21・22日、荒谷山末端より山頂を極めたルー

トを、昨年7月24日荒谷峠より荒谷山を往復し、今回

の縦走で大台ヶ原笹ノ峰とを山彦の記録として結ぶこと

が出来た。

その十 新宮市立図書館・奈良県立図書館に山彦記録全九輯

登録保存される

新宮市立図書館主事・森 奈良好氏の御理解ある計らい

で記録集が登録保存されたことから「大峯修験道七十五

靡」の著者・森沢義信氏の好意で奈良県立図書館に

も保存されることとなった。その内訳は左の通り。

第1輯 序章その1 一般山行記

第2輯 序章その2 一般山行記

第3輯 序章その3 一般山行記

第4輯 千日刈峰行 一巡目、二巡目、三巡目
第5輯 行仙宿建設と小屋回り擁壁作り

建設・擁壁

第6輯 行仙宿水場径改修 第2次、3次と

補給路開設・改修

第7輯 平治宿建設と行仙宿管理棟建設

第8輯 備後川流域の山と今西賞

白髭岳賛歌

深仙灌頂堂と避難小屋修復

第9輯 結び。熊野誌・淡交社・禅と念仏社

熊野林業、山と溪谷、伊富喜師追悼記

シチズン賞受賞関連・

塩川先生ご入会関連

その十一 十津川村有林松間伐材回収

11月2・日3日 奥駈道をはじめ補給路、浦向道、水場
径の道普請に備えて活用する為、二度の出勤で93本
を確保、皮を削いで順次小割りして用材としたい。
再びいい道としてよみがえることであろう。

その十二 子ノ泊山・山彦新道閉鎖

12月11日 昭和58年に翌59年十二支会(創設・今西
錦司先生)の例会として子ノ泊山に来山されるところ
から、浅里西の谷・詰ノ滝よりヤケ嵩背後を経て主稜
線に至る間に、新しく径を拓いて山彦新道と名付け、
以来固定ザイルを交換し、道の手入れをして来たもの
であるが、このザイルの腐朽で大事故の懸念もあり、

山彦の会計事情もあって、今回ザイルを撤去し山彦新
道を閉鎖することとした。

昭和59年3月、今西先生(82才)以下十二支会参
加者79名、NHK取材班3名、山彦36名という大
集団が全員このルートから登頂し、有名人の来山で地
元も漸く全国的に唯一の子(ネ)と付く山に気付いてP
Rにつとめ、全国各地から来山されるようになった。
一昨年(平成23年)の紀伊半島は、未曾有の大災害を
受け、この西の谷も大崩落があり通行は難渋するが、
このルートも立間戸谷遡行と並び立つ本当の山好き向
きコースであるので、良きリーダーに引率されザイル
携行で利用して貰いたいものである。

(主記：玉岡憲明、併記：川島)